Rotary Rotary International District 2500

202511.6（木）
第 18 回例会
（通算3827回）

2025-2026 年度
釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ
『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレッツォ

第 2500 地区ガバナー
佐渡　正幸（釧路北 RC）

会　　長　荒井　　剛
副 会 長　池田　一己
幹　　事　横田　英喜
編集責任者　クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日　毎週木曜日 12:30 ～ 13:30　夜間例会 18:00
例会場　釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局　釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
0154-24-0860　0154-24-0411

本日のプログラム	ロータリー財団月間にちなんで（ロータリー財団寄付推進委員会）
次週例会	会員卓話「旅部報告会」（プログラム委員会）

■ロータリーソング：奉仕の理想　　■ソングリーダー：松井　聖治君
■会員数　　107 名
■ビジター　帯広西ロータリークラブ副会長　中川　芳明君
　　RI 第 2500 地区グローバル補助金　所　　輝泉君
■ゲスト

会長の時間　荒井　　剛会長

皆さん、こんにちは。だいぶ寒くなって、タイヤ交換をしないといけない時期になったかと思います。実は今日、ギリギリまで事務所にいて車に乗ってロータリーの会場に駆けつけようと思ったら、車をタイヤ交換に出しているのを忘れていまして、走って来ました。なので、そういうことがないように皆さん、十分気をつけてタイヤ交換していただければと思います。

さて、先週の会長の時間の時に、今年 12 月第一例会で年次総会を開催する予定ですとお伝えしました。その際に、次々年度の会長の立候補を受け付けますというお話をさせていただきました。昨日までがその期限でしたが、立候補がございませんでしたので、今後、指名委員会を立ち上げて、こちらのほうで指名させていただく運びとなりましたので、それをお伝えさせていただきます。それは当クラブの会長の話でございます。

関連するわけではないですが、国際ロータリーの会長について少しお話したいと思います。次々年度の会長エレクトには韓国の方がなられていたのですが、闘病生活のために急遽、辞めるということになりまして、その方は残念ながらお亡くなりになってしまったのです。

その後を受けて、2026-2027 年度の会長エレクトとして、アフリカのナイジェリア出身のババロアさんという方が選ばれました。アフリカ出身の会長というのは、2003-2004 年度のジョナサン・マジヤベさんというナイジェリアの方以来で、20 年以上ぶり 2 回目となっています。実は、アフリカのウガンダ出身のサム・オアリさんが 2018-2019 年度の会長に選ばれていたのですけども、この方は就任直前にお亡くなりになってしまったのです。もし就任していれば 3 人目となっていたのですけども、その方亡くなられてしまったので、アフリカ出身の方は今回で 2 人目です。いずれもナイジェリア出身となっております。

いま、アフリカ大陸のロータリアンが増えていると言われています。そこで、どれくらいの数がいるのか、どれくらいのクラブがアフリカにあるのかなと調べてみました。

今年の 7 月現在でロータリークラブは 3 万 6000 弱のクラブあり、会員数が 112 万 4681 人と言われています。アフリカ大陸はどれくらいなのか見てみますと、実は、あまり発表がないので、おそらくこうだろうという数字になってしまいますが、アフリカ大陸には約 620 のクラブ、約 3 万人のロータリアンが活動していると言われています。

つまり全体で見ると、クラブ数で約 1.7%、会員数で 2.7%。数からすると、まだまだ小さいですが、いまの国際ロータリーの現状を見ますと、どんどん増えている地域のひとつにアフリカが入っています。そんなところからナイジェリア出身の方が 2026-2027 年度

会長に選ばれたことは非常に意義深いのではないかと思っております。
今月は財団月間ですので、この後、また私が喋るのかとなってしまうのですが、この後で私がグローバル補助金等について話をするのです。
実は先月、カリブ海を襲ったハリケーン・メリッサでは、主にジャマイカで非常に大きい被害が出ているのです。ジャマイカ政府によると、ハリケーン・メリッサは最大級のカテゴリー５の暴風雨として秒速 82m、とんでもない風で襲って来て、今でも日々死者がどんどん増えている状況です。そんな状況を憂いたロータリー財団で寄付を受け付けて、そこに支援するということでハリケーン・メリッサに対する大規模災害救援基金が設立されました。マイロータリーからも入って行けますので、もし少しでも寄付してもいいなという方がいれば、マイロータリーから個別に寄付ができます。
ロータリー財団の関係もありましたので、メリッサについてふれさせていただきました。
これで会長挨拶を終わらせていただきます。以上です。

ごあいさつ
帯広西ロータリークラブ　中川　芳明副会長

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました帯広西ロータリークラブの中川と申します。本日は、この伝統ある釧路ロータリークラブにお招きいただきまして、ありがとうございます。
私事でありますが、小学校６年、中学・高校と釧路におりました。今回、地区大会も釧路だったので非常に懐かしく思っております。私のいた小学校は、いまヤマダデンキになっております。大体お分かりかと思います。もしかしたら、同級生とかいたりするのかなと思ってはいるのですが、もう顔もだいぶ変わってしまったので、きっと分からなくなっていると思います。
本来であれば当クラブの会長が来てご挨拶を、ということだったのですけれど、先ほど会長からもあったように帯広西ロータリークラブも本日が例会日で、今日はガバナー補佐公式訪問と理事会等があって、今回はこの３人の参加となっております。
今日はグローバル補助金のお話がお聞きできて大変勉強になるということで、じっくり聞きたいと思います。よろしくお願いいたします。
昨年うちのクラブから小谷ガバナーの輩出に伴いまして、昨年度は公式訪問、また地区大会で帯広に来ていただいて、いろいろとご協力いただいたことに感謝いたします。かさねてお礼申し上げます。
今回のグローバル補助金チームでは、うちの所が委員になっておりますのでよろしくお願いしたいと思います。
小谷ガバナーの件もあって、昨年度より荒井会長にはグローバル補助金についてご相談させていただいておりました。当クラブでは、まだグローバル補助金を使った事業は一度もなくて、今回こうやって釧路ロータリークラブと帯広西ロータリークラブが共同でやっていくということで、大変楽しみにしております。今回はタイで行うので、うちの会長もぜひタイでお会いできたらいいなと思っているようです。
うちの西ロータリークラブですが、54 年目になります。会員数は 86 名、毎回例会に参加しているのが 50 ～ 60 名ぐらいおります。最近は青少年のロケット教室をやっておりまして、これも奉仕活動として継続してやっている事業のひとつです。
また、当クラブは親睦が大好きで、ゴルフクラブとなると 86 名中 60 名以上がゴルフ同好会に入っておりまして、その中でも、毎週土曜日やっている「あまの会」とか、遠征とかありまして、すごく活発にやっております。
それからお酒を飲む銘酒会とか麻雀同好会、女性会員と奥様で親睦する会、最近はサウナ同好会とかに入って活発にやっております。今年も新入会員 10 名を目指して 90 名でいきたいと意気込んでやっております。
今度は帯広西ロータリークラブのほうにぜひ来ていただければありがたいなと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告　横田　英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。11 月に入ってロータリーレートが変わっております。１ドル 154 円。先月 149 円でしたから少し円が下がっております。
ガバナー月信が配信されておりますので、皆さんご覧いただくよう、よろしくお願いいたします。
あとひとつ、今日、お食事中に各テーブルにごはんの「おひつ」があったと思います。フードロスの関係でホテルと打合せをして、次週以降、「おひつ」の出るところをホテルのジャーで、ホテルの方が皆さんに盛る形にして「ご飯のロスを減らしましょう」と変更していきたいと思います。方法がちょっと変わりますが、各自がジャーに取りに行く形ではなくて、ホテルの方に配膳していただく形になります。もちろん、おかわりを言っていただいて大丈夫ですので、よろしくお願いいたします。
この例会終了後、第５回目の理事会を開催いたしますので、理事の方はよろしくお願いいたします。
以上となります。

■本日のプログラム■
ロータリー財団月間にちなんで

ロータリー財団寄付推進委員会　堀　　充利委員長

皆さん、こんにちは。今年度、ロータリー財団寄付推進委員会の委員長を務めております堀です。

今月は、ロータリー財団月間ということで、今月の例会はロータリー財団寄付推進委員会が担当することとなっております。今年度の重点事項としては、ロータリー財団へ寄付の推進、ロータリー財団認証ポイントの利用促進、ポール・ハリス・フェロー認証授与者の増強を掲げスタートいたしました。

委員会の名前のとおり寄付推進ということで、今後も皆さまからのたくさんの寄付をお待ちしております。

さて、今日の講演は、2500 地区のグローバル補助金チームリーダーであり、また、現在の当クラブ会長であります荒井会長より「グローバル補助金についての仕組み、今後の展開」についてお話をいただきたいと思います。

皆さま、荒井会長の話をよく聞き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、荒井会長、よろしくお願いいたします。

『グローバル補助金についての仕組み、今後の展開』
2500 地区グローバル補助金チームリーダー
荒井　　剛会長

またかと思われると思いますけれど、お付き合いの程、よろしくお願いいたします。

今週末に地区の補助金管理セミナーが釧路プリンスホテルで開かれます。当クラブからは次年度会長の工藤さんと市橋さんが参加すると聞いております。また、地区補助金事業の報告会では、当クラブで行った釧路湿原地区補助金事業について木下さんに報告をしていただくことになっております。私は、グローバル補助金の関係で、そこで説明することになりますが、今日はそれよりも５分くらい多いかもしれません。なかなかグローバル補助金の内容というのが細かく話せば話すほど面白くないのです。かつ、難しいかもしれませんが、そこはご容赦いただければと思います。

もし、時間があれば、当クラブがここ 10 年間でやってきたグローバル補助金について、最近入会された方はどのようなことを行っているのかをもしかしたら分からないかもしれないのでご紹介できればと思っています。時間がなかったらすみません。

ロータリー財団との関りから話さないといけません。私もこれは、最初は全く分からなかったのですが、「国際ロータリー」と「ロータリー財団」がありますが、これは別組織です。皆さんがＲＩ人頭分担金としてお支払いいただいているもの、これはロータリー財団には関係がなく、国際ロータリーに払われているものです。多くのお金は国際ロータリーに払われています。

では、ロータリー財団はなんなのかというと、これは皆さんからを含めての寄付で成り立っているものです。

ロータリー財団と国際ロータリーは別組織ではありますが、国際ロータリーの傘下に設立された非営利財団法人です。とはいえ、国際ロータリーの目的のために活動していますし、管理委員は国際ロータリーの会長エレクトが指名し、理事会が承認するので運営面でも密接な関係でもあります。ロータリー財団の財源は皆さんからの寄付であります。

ロータリー財団はいつ作られたのかというと 1917 年、100 年以上も前です。当時の国際ロータリー会長のアーチ・クランフさんが世界で良いことをするための基金の設置を提案しました。最初に集まった寄付額は、26 ドル 50 セント。これがロータリー財団を基礎づけた最初の寄付金の額です。これが今のレートでいくと 661 ドル 47 セント。当初はこれくらいでしたが、これがどんどんと、今では 100 年経ってものすごく大きな金額となって、それが各地区の補助金として使われているのです。これがロータリー財団の基になります。

では、ロータリー財団はどれくらいの収入があって、どのような支出があって、財務状況はどうなっているのかが気になります。これは、ロータリーに入らなくても誰でも見られるのです。ロータリー財団のホームページに行くと、財務報告書が年次報告書として必ず出ています。どれくらいの収入があって、どれくらいの支出があるのかが 1 年ごとに書かれています。

全体の収入は 4 億ドル、日本円にすると 400 億円くらいの収入があって、支出が下に書いてあります。支出のところでは、プログラム補助金で 2 億ドルくらいの補助金が使われています。この中に地区補助金やグローバル補助金が入っているのです。このような財務状況をしっかり見ることはないと思うのですが、今回、私もロータリー財団について話をすることから改めて見てみましたら、きっちり、こういう財務が出ていました。

ちなみに、国際ロータリーの財務についても、年次報

告書という形で載っています。
どんなことに使われているのか、この中身について細かくは載っていないので、この数字が合っていることを前提に信じるしかないのですが、大枠としてはホームページに載っています。
ロータリー財団のホームページに行くと、2023 年から 2024 年度に使われた補助金の概要が分類されています。地区補助金の数は世界で 485。485 というのは 2500 地区で 64 クラブがあるのですが、地区補助金事業を使ったひとつひとつはカウントされずに
2500 地区の地区補助金は 1 つとしてカウントされているはずです。なので、世界的な数では 485 になります。
グローバル補助金の数は、世界で 1287。このうちの 1 つを当クラブでも去年、行ったということになります。
私が会長あいさつでふれたハリケーンの「メリッサ」の関係で、たまに設立される基金があるのですが、それが災害救援補助金です。これにも使われています。
では、2500 地区でどんなグローバル補助金を使ったのかを見てみます。
「世界で良いことをしよう」ということでいろいろな国で、いろいろな補助金を使ってきました。モンゴル、フィリピン、マレーシア、イギリス、ウクライナ、インドネシア、タイ。割と多いのがタイですが、最近ではモンゴルでの事業も盛んに行われています。
イギリスというのは、日本の東大を卒業した方がイギリスの大学院に行くための奨学金、留学生としてグローバル補助金を使って補助したのがイギリスの事業内容です。
今日はグローバル補助金について説明したいと思います。グローバル補助金の使い方自体はマイロータリーから入ると、「グローバル補助金ガイド」が載っています。80 ページくらいありますので、これを全部読んだ人はいないと思いますので、必要な個所だけ見ていただいて。こういうのがありますから、なにか困ったらこのサイトにアクセスできることだけを覚えていただければいいと思います。
これは毎年、あるいは 2 年に 1 度ずつブラッシュアップしていきますので、「昔のガイドを持っている」と言っても、それは今では通じないかもしれないので、適宜、確認をする必要があると思います。
2500 地区では去年、どんなグローバル補助金をいくつ、どこで行ったのかをおさらいとして見ていきたいと思います。
2024 年からの継続というか、まだできていないのがひとつありますが、実施済みなのが 2 番から 7 番です。
２番、旭川西クラブがメインとなってタイのプーケットと共同で事業を行いました。トイレ等の衛生環境の改善。
あとは 2500 地区が独自に 3300 地区と一緒にグローバル補助金を行ったのもあります。これは心臓蘇生の機械を提供するものです。
当クラブでも昨年、グローバル補助金を実施しています。相手国はタイです。3330 地区のホストクラブはプロイ・ラチャブリークラブです。このクラブは女性だけのメンバーで成り立っているクラブです。昨年、髙橋年度で髙橋会長、吉田副会長、東堂幹事と一緒に現地に行ってまいりました。これも 2500 地区のひとつの事業として紹介させていただきました。
そのほか、音更さん、網走さん、帯広北さん、このようなクラブがグローバル補助金を活用しています。
これは、どんなクラブでもグローバル補助金を使ってもいいので、やっていない所はただやっていないだけのことで、チャレンジすればできることをこれからご紹介したいと思います。
どのようにして、何が条件なのかを説明させていただきます。
大きく分けて、2500 地区独自の条件・ルールがあります。もうひとつは、ロータリー財団の条件、この二つをクリアすることが必要になります。
どんな条件なのか。形式的な話として、2500 地区として主催する補助金管理セミナーに参加しないと資格がもらえません。その補助金セミナーが今週末に釧路プリンスホテルで行われます。次年度以降、補助金を使った事業を考えられているクラブはこれに参加しないと、そもそも資格がありません。これは、ことあるたびにいろんなところから各クラブに言っているのですけれど、一人でも参加していればいいのです。その一人でも参加していなければ、いくら「行いたい」と言っても次年度は「×」になりますので、そこだけ注意していただければと思います。なので、帯広西さん、今週末にどなたかに参加していただくことになります。
これが形式的条件で、実質的条件として下に書いてあるものがあります。これは 2500 地区独自のルールです。他のクラブないし他の地区ではやっていないと思います。やっている所があるかもしれませんが、これは 2500 地区独自のルールです。世界的にみても、これを「やっている・やっていない」を聞いてみると、やっていない所が多いかもしれません。
「もし、グローバル補助金を行うのであれば、自分のクラブからキャッシュで 1050 ドルを絶対に出してね」というものです。会員数に関わらず、会員が
100 人だろうが 10 人だろうが、クラブとしてグローバル補助金を行うのだったら 1050 ドルを出してもらうのがルールです。
ほかの国、ほかの地区ではどのようなルールなのか。タイもそうなのですけど、「そのクラブがロータリー財団に寄付した金額に応じた補助金しか使えません」

というルールを採用している所があります。そうなると、人数が多くなれば寄付金も多くなりますが、人数が少ないクラブは寄付金も少ないとなり、寄付金に応じた金額では使えないことになります。これは、
2500 地区ではどうなのだろう。いろんなクラブにもグローバル補助金を使ってもらいたいという趣旨で、寄付金額に応じて補助金を分けるのではなくて、後で話す上限がありますが、クラブとしての負担は 1050 ドルをクリアしてくださいというものです。
これは 2500 地区の条件ではなくてロータリー財団の条件なのです。何にでもグローバル補助金を使えるわけではないのです。よく言われる７つの重点分野、環境問題、疾病予防と健康、水と衛星、母子の健康など７つのうちのどれかに当たる事業でないと対象にはなりません。これが第一の条件です。
もうひとつ。これが地区補助金と大きく違うところです。グローバル補助金を行う場合に、補助金の総額の予算が３万ドル以上でないといけない、と言われています。約 450 万円の予算を組まないといけません。
もうひとつ。グローバル補助金は国内だけで完結しませんので、必ず海外のどこかの国のロータリークラブの存在が必要です。
この３つが大きく分けて必要になります。この中の予算について話します。
では、この予算３万ドルをどうやって確保するのですかです。さっき、クラブから 1050 ドルでいいです、と言いました。残りの約２万 9000 ドルはどうするのかです。それが補助金なのです。それが補助金としてロータリー財団から出ていくのです。
ロータリー財団からどのような費目で補助金をもらうのか。ここから眠たくなる難しい話になるのです。ここは我慢のしどころです。ロータリー財団からの補助金の種類として２つあります。ＤＤＦとＷＦ。ロータリーはこういう頭文字を使うのが大好きですが、何が違うのですか。ＤＤＦは 2500 地区が自由に使える補助金なので、2500 地区としてグローバル補助金を行いたいと言っているクラブに出せる補助金です。ＷＦはロータリー財団が決められる補助金です。まず、ここまでを押さえてください。
これを説明するために年次基金というシステムの制度を紹介しないといけません。これがややこしいのです。ロータリー財団からどのようにして寄付金として下りてくるかというと、３年前にロータリー財団に寄付したものが３年後に戻ってくるというシステムです。３年前に寄付した総額が運用されて３年後に３年前に寄付した金額が半分ずつＤＤＦとＷＦに分かれます。３年前に寄付した半分くらいが地区の裁量で使えることになります。この図では、３年前の寄付金総額が 24 万ドル、３年後に 12 万ドルと 12 万ドルに分かれます。正確には５％くらいが運営費として引かれますが、面倒なのでこうします。その 12 万ドルに分かれたＤＤＦを地区で使えますので、そのＤＤＦの中の一部としてグローバル補助金があります、となります。
これまでの実績から、３年前の寄付金総額を前提にすると、どれくらいの金額をグローバル補助金につぎ込めるのかが問題になります。だいたい、３万ドルから４万ドルくらいと言われています。これを地区としてＤＤＦとしてつぎ込めます。
2500 地区の場合、１件当たり１万ドルくらいのＤＤＦを渡すと言われています。さっき、合計で３万ドルの予算が必要だと言いました。すると、現金で 1050 ドル出します。ＤＤＦからの１万ドルを使います。さっき言ったＷＦがありますが、ＷＦがＤＤＦに対して８割上乗せして補助金を出してくれます。これがシステムのミソなのです。地区が１万ドル使うと決めたら、8000 ドルを上乗せしてくれます。これで１万 8000 ドルです。クラブとして 1050 ドル出しますから１万 9050 ドル、これではまだ足りません。足りない分は、相手国がありますが、相手国で同じようにＤＤＦを使えるはずです。向こうは向こうでＤＤＦをいくら出すのか、出したうえでＷＦからの上乗せをして合計で３万ドルにする、ということで３万ドル以上の事業予算を確保するのがグローバル補助金になります。
これを補助金セミナーで 10 ～ 15 分で話すのですから分からない。私もなかなか理解できなかったのですが。でも、繰り返し言うしかないのです。
一番大事なのは、グローバル補助金をやりたいと言って手を挙げていただくのはいいのですが、地区として支援できるグローバル補助金の数が、毎年、３万ドルから多い時で４万ドルくらいなので５つのクラブが手を挙げたら、１つのクラブに１万ドルずつを渡せないことになります。それが問題ですが、最近、見ていると手を挙げるクラブがそこまでいません。なんだかんだいって、支援できるＤＤＦの数が多いのと繰り越されているＤＤＦがあるので、それを使うと今のところ年間５～６件くらいはできるという算段になっています。今後、手を挙げるクラブが多くなる、あるいは予算規模が３万ドル以上となっていますが「５万ドルの予算を組みたいんだ、もう少しＤＤＦを出してくれ」と言われた時には「はい、わかりました」と簡単にはいかない、その時のためにどのようなルール作りをしないといけないか、が問題になるかなと思っております。
あっという間に時間が過ぎてしまいました。時間が余ったらウチのクラブの過去の事業を紹介しようと思っておりましたが、その時間がなさそうです。このグローバル補助金のシステムを話したかったのでメインはここでした。
今年度に予定されている 2500 地区での件数は今のところ４件くらいです。そのうちの１件が先ほど紹介し

ていただいた当クラブと帯広西クラブさんが共同で行おうとしている事業があります。それは、婦人科に関わる超音波の医療機器などを共同で提供するような事業を考えています。これが内部資料ですが、読み上げる時間がありません。
今年度中にこれが提供できたら、贈呈式があると思います。その時に、当クラブから行ける方と帯広西クラブさんからと一緒にタイで贈呈式に参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
だいぶ駆け足になりましたけれども、これでグローバル補助金についてと今後の展望についての説明とさせていただきます。以上です。ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■池田　一己君　すみません。本日欠席します。
■得地　　哉君　遅くなりましたが、湿原ツアーへのご参加、ご協力誠にありがとうございます。
■小野寺　俊君　息子に一足早く桜が咲きました。
■吉田　潤司君　地区大会で家内が RI 表彰を受けました。ありがとうございます。
■中川君・石原君・所君（帯広西 RC）　本日はお招き頂きましてありがとうございます。

今年度累計　　133,000 円